

第15回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

桃核承気湯他

四診 § 切診

峯 尚志





今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○人參芎軍桃花湯

○桃軍園（桃核承氣湯）

○●桃核承氣湯

○大黃牡丹皮湯

○癥瘕圓（桂枝茯苓丸加當歸、大黃）

○抵當湯、抵當丸

○下瘀血湯

桃の節句 ひな祭り

流し雛

現代でも女の子がお人形遊びやおままごとを好んで遊ぶように、平安時代の貴族の子女の間でも、お人形を使った遊びが流行し「ひいな遊び」といわれていた。

また、人の形をした紙を水に浮かべて流し、この人形に女の子の穢や厄災を移してお祓いをする「流し雛」という行事も行われていた。これらが結びついたことが、ひな祭りの起源になったといわれている。



平成16年3月3日

桃



- モモ（桃、学名: *Prunus persica*）はバラ科スモモ属の落葉小高木。また、その果実や花のこと。
- 中国原産。食用・観賞用として世界各地で栽培されている。春には五弁または多重弁の花を咲かせ、夏には水分が多く甘い球形の果実を実らせる。未成熟な果実や種子にはアミグダリンという青酸配糖体が含まれる。観賞用はハナモモという。中国では邪鬼を払う力があるとされた。

桃源郷伝説

《陶淵明「桃花源記」に描かれている桃林に囲まれた平和で豊かな別天地から》俗界を離れた別世界。仙境。理想郷。

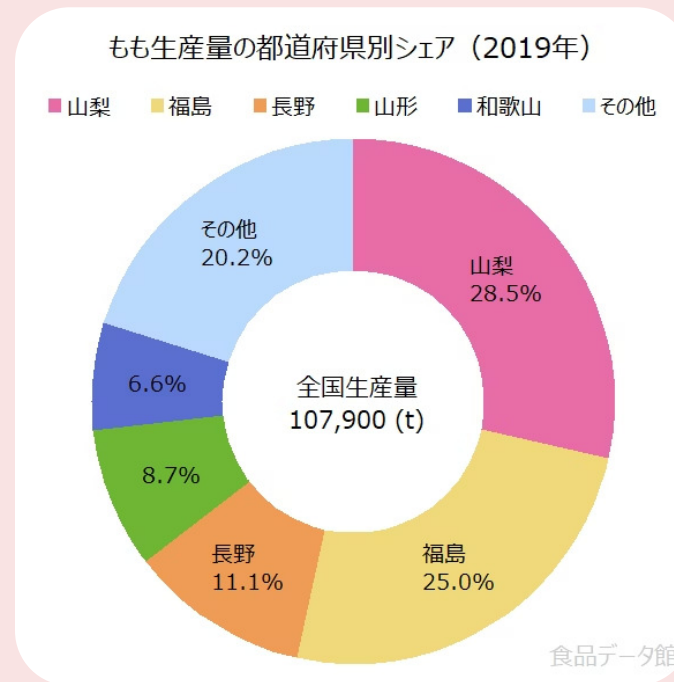
陶淵明の作品『桃花源記』が出处になっている。桃源郷への再訪は不可能であり、また、庶民や役所の世俗的な目的にせよ、賢者の高尚な目的にせよ、目的を持って追求したのでは到達できない場所とされる

桃源郷はどこにあるのか

創作されてから約1600年経った現在でも『桃花源記』が鑑賞されているのは、既に人々の心の内にある存在を、詩的に具象化したものが桃源郷であるためとされる。既に知っているものであるため地上の何処かではなく、魂の奥底に存在している。桃源郷に漁師が再訪出来ず、劉子驥（リュウシキ）が訪問出来なかったのは、心の外に求めたからであり、探すとかえって見出せなくなるという。

それでも外に求めたくなるのが人の性

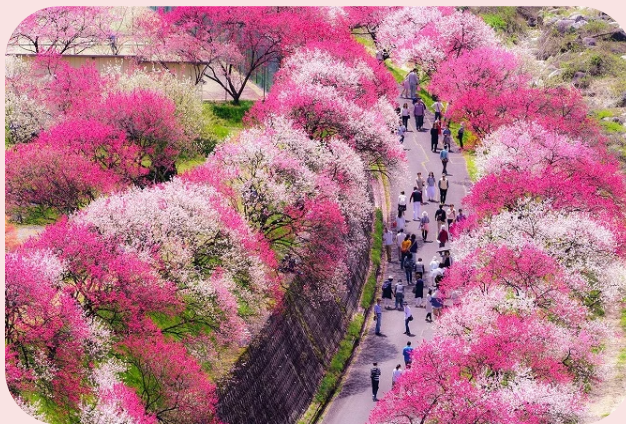
我が国にある桃源郷



福島県花見山公園



長野県阿智村



三重県いなば市



桃仁

バラ科のモモの成熟種子中の仁を乾燥したもの

性味

平、苦、甘 帰経：心、肝、大腸

主成分

amygdalin、emulisin、脂肪油、ビタミンB1

薬能

破血祛瘀、潤燥滑腸

応用

鎮痛、消炎、解毒、通便

月経痛や無月経

打撲捻挫による内出血

腸燥便秘



○桃軍圓

大黄20銭、桃仁、桂枝、甘草各10銭芒硝12銭、蕎麦5銭

右末となし煉蜜に和して丹となす
この方は傷寒論にいう桃核承気湯なり

軍 = 将軍 = 大黄



○桃軍圓

図の如く

形ありて之れを按して痛むもの即ちこの証なり

世に所謂、男女積聚なるもの

或いは勞瘵鬱証と号するものにも間々この証あり

これ血証なるが故に

或いは吐血、下血、痔疾、脱肛、

淋瀝、經水不調等の患いあるものなり

然りといえども、その毒破れざるものは

さまで患うることなきもあり

然れどもその腹証あるもの

桃軍圓を永久（しつこく長く）に用ういれば

諸患発することなし

臍より上





○桃軍圓2

又、一証、この図の如く

紐を結びたる如きものこれを按せば即ち痛む

また桃軍丸の証なり

はじめにいう腹証と異なりこの腹柔らかかにして知れ難し

こころを沈めて探り求むべし

又、曰く

古今の医書、おおむね

臍より以下を小腹と名づくと

我が門、臍傍より上腹の左右、

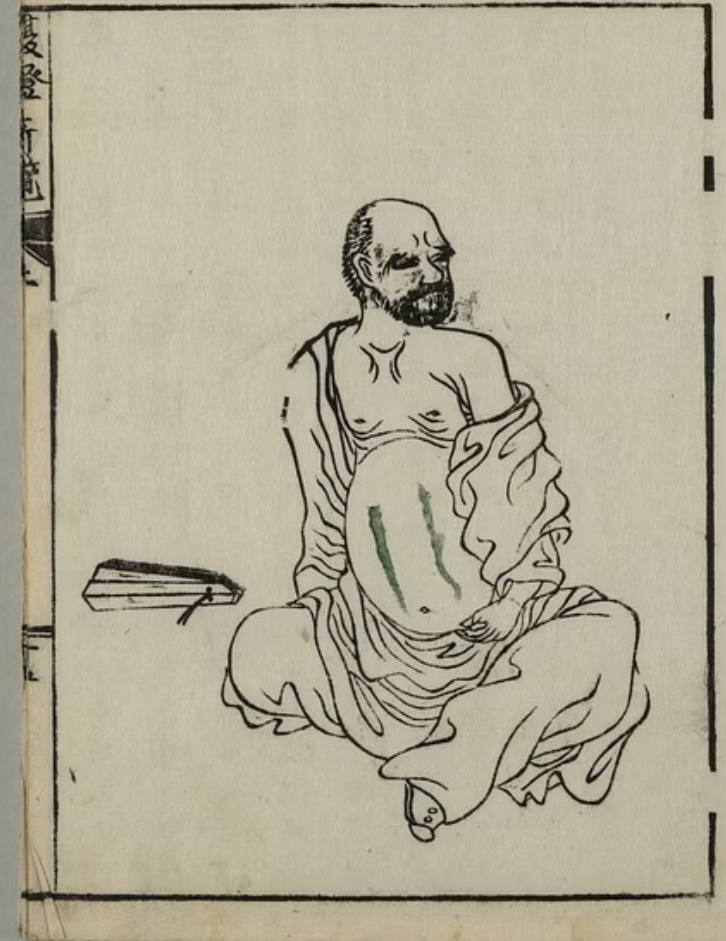
少しばかりの所をもって小腹とす

蓋し古今の医書と合わずといえども

医はもとより実事にして

動かざるところあるを主とするものなれば

即ち毒のあるところを以てその名を定む。



すなわち文礼はみずからの経験にしたがって 瘀血の抵抗圧痛点を臍より上に規定している

およそ此の証、世に甚だ多き者にして余、数百人を治して後、その効をいうものなれば、いるること有るべからず且つ、我が師、鶴先生は東洞翁を慕いたる者なれども、その門に入らずして、自ら天機の力をもって腹診を極められたるものなれば、その精妙なるところに至っては、世俗の論の及ぶところにあらず。

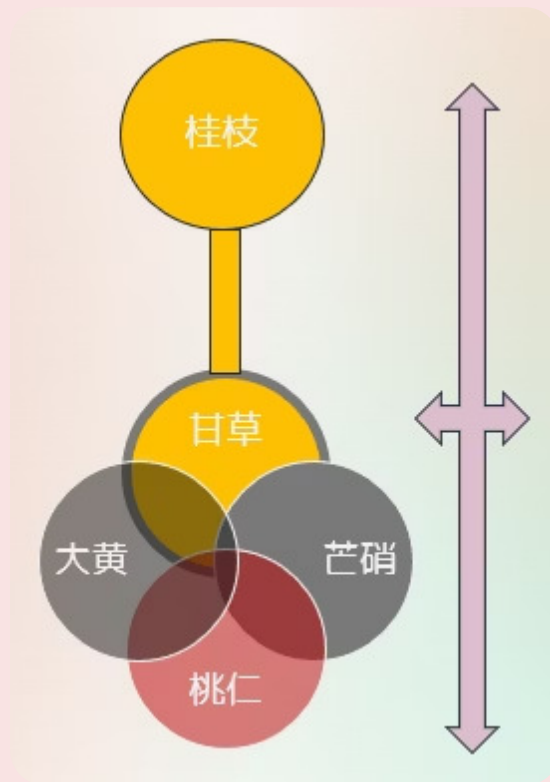


○●桃核承氣湯

大黃 1 錢、芒硝 6 分、桃仁、桂枝、甘草各 5 分

桃核承気湯の構成

甘草で胃気を守りながら、大黄、芒硝、
桃仁で瘀血を下し血を浄化する



桂枝甘草で気の上衝を治し

温性の桂枝で浄化された血を全身に巡らせ、引火帰原して腎に納める

○桃核承気湯

図の如く

小腹に急結ありて上衝し悪血深し

諸々の久病を患うる者にこの証多くあり

数多の病名に拘わらず、

只、この腹証を眼として此の方を本剤と極め

小腹急結の病毒を攻るなり

図ノ如ク。小腹ニ急結有テ上衝ノ悪血深シ。モロク

前編ニ図スルコトヲ。經軍圓ハ胸上急結ヲ胸脇
ニ逆滯スルヲ所謂血癥アルハ肝積ナリトイフモノニ
多シ此圖ハタチニ小腹急結ノ甚シキモノヲ奉ク
是亦ミラズバアルカラス前編ノ図説ト併見ミ



桃核承気湯小腹急結之圖

●桃核承気湯

図の如く、

左の臍傍、天枢の辺より上下

二、三の間、三指探り按するに

結するものあるを得、

これを邪按するに、痛み甚だしく上へ引きつる

ことを覚ゆるものを桃核承気湯の証とす。

或いは臍上、或いは臍下も亦結ばるるものありて

之れを按して痛むといえども、

この左の臍傍に得るものをもって正候として

臍上、臍下に及ぶものはその結の甚だしきものと知るべし。

、その結、即ち瘀血にして、胸腹に逆上す

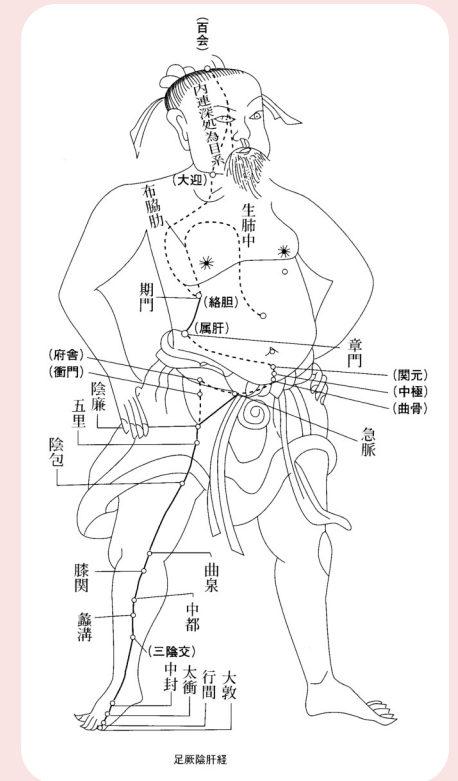
甚だしきものは、脇下に迫り、

胸腹より背に徹して、その証発作あり



●桃核承気湯証の人はすぐに切れる

男女を問わず、肝積と称して
左の肝経を攻めのぼるものこの証多し
血気上衝して急迫するをもって
その人をして性急にして事に耐えがたからしめ
あるいは白眼多く、その人狂の如く
事に触れて憤怒しやすく
或いは器物をなげてその怒を洩散するの類
常に心腹の間をして急ならしむ。或いは、
時に頭痛、頭重く、衄血、衄血の患あり
或いはその毒、下部に及んで痔疾、脱肛、
婦人は経水不利の患あり
若しくは激しきものは
作するときは胸脇逆満攣急して痛み甚だしく
噤口、断齒、卒倒するものあり
或いは心胸に攻め、胸背徹痛して
時々苦酸水を吐くものあり



足厥陰肝経

●叔虎の図は切れやすい人物 を的確に表現している

眉がつり上がり
コップを片手に
まさに投げつけようとする
人の姿
腹部については
圧痛点、抵抗点というより
引きつれを表現している



●桃核承気湯はPMDDに有効

PMDD : Premenstrual Dysphoric Disorder

月経前不快気分障害

PMSの諸症状のうち、

- 「イライラ」
- 「気分の落ち込み」
- 「不安」
- 「怒りっぽくなる」

といった精神症状が主体なもの

腸間膜という臓器

腸間膜（Mesentery）は、解剖学では消化管についている膜全体を指すが、狭義では小腸（空腸と回腸）を腹部の後方から支える二重層の腹膜（小腸間膜）を指す。つまり、腹部の消化管のうち、腹腔の背中側の壁（後腹壁）にくっついていない部分を後腹壁につなぎ止めている膜。

空腸や回腸などの腸管を包み、後腹膜からつ吊り下がった腹膜のひだ、二重の腹膜が癒着しているため、膜は薄いが強靱で、扇状に広がって長い腸を支える構造になっている。そのため、血管、リンパ管、神経と消化管をつなぐ幹線路となり、内臓脂肪が蓄積する場所でもある。

したがって、腸間膜がある消化管は、胃、十二指腸以外の小腸（空腸、回腸）、大腸の一部（虫垂、横行結腸、S状結腸）ということになる。小腸の壁にあるのが「小腸間膜」、結腸の壁にあるのが「結腸間膜」だ。十二指腸、上行結腸、下行結腸は、後腹壁にくっついているので、腸間膜はない。

腸間膜は血管系、消化器系、ホルモン系、免疫系、脳神経系と深い相関関係を持つ

瘀血の圧痛点

桃軍圓は桃核承気湯にそば粉を加えて丸剤にしたもので基本的には桃核承気湯と同じ処方と考えられる。

桃軍圓で文礼は瘀血の硬結を臍より上と強調しているが、桃核承気湯では左臍下の引きつり抵抗圧痛をしめしている。

また叔虎は臍の上下に渡って拘攣を表現しており、文礼の硬結臍上説を批判しながらも、自分の絵では臍の上下の引きつれと表現している。

桃軍圓

瘀血の圧痛点と腹部の引きつれ

文礼



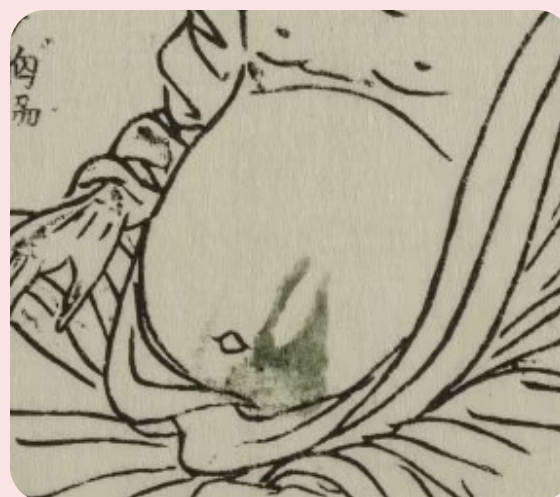
文礼



桃核承気湯

下腹から上腹にかけてのひきつれ

文礼



叔虎

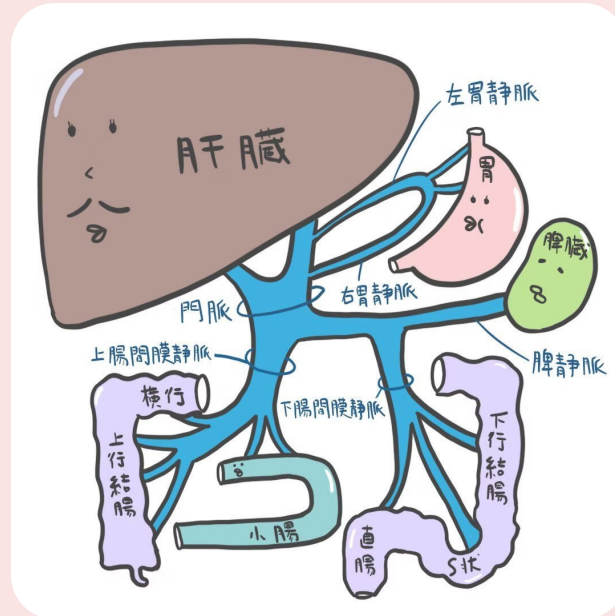
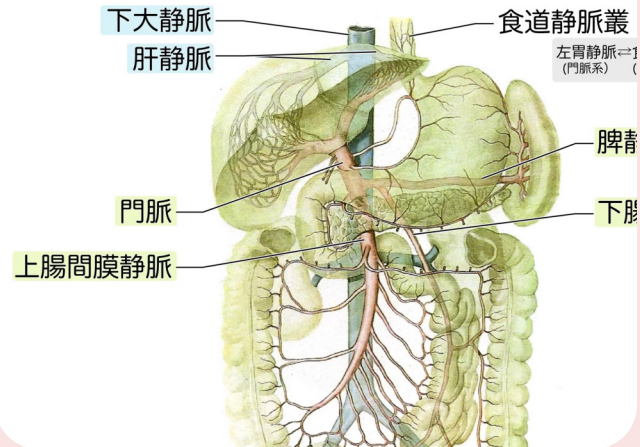


腹部は「濁なる場所」
不消化物や糞便を蔵する腸管と
それを包む腸間膜に注目する

現代でも私たちは瘀血の圧痛点を臍下外側2、3横指の深いところに求めることが多いが、腸間膜静脈の鬱滞と考えれば、腹部瘀血の圧痛点は一箇所に限定されるものではないことがわかる。

腸間膜静脈は瘀血の好発部位

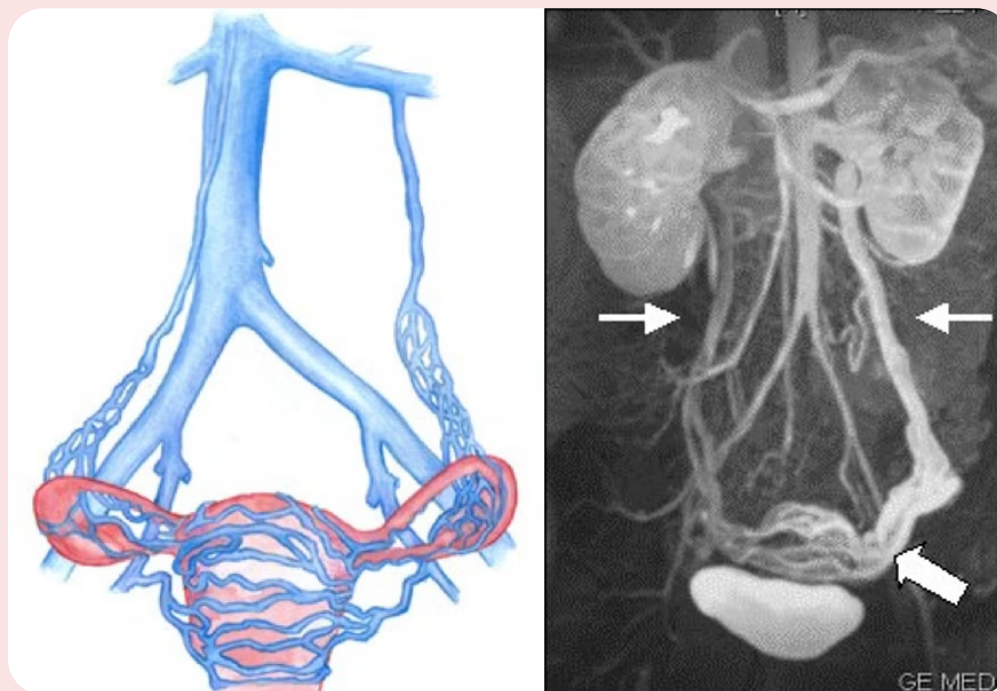
門脈系と体循環系



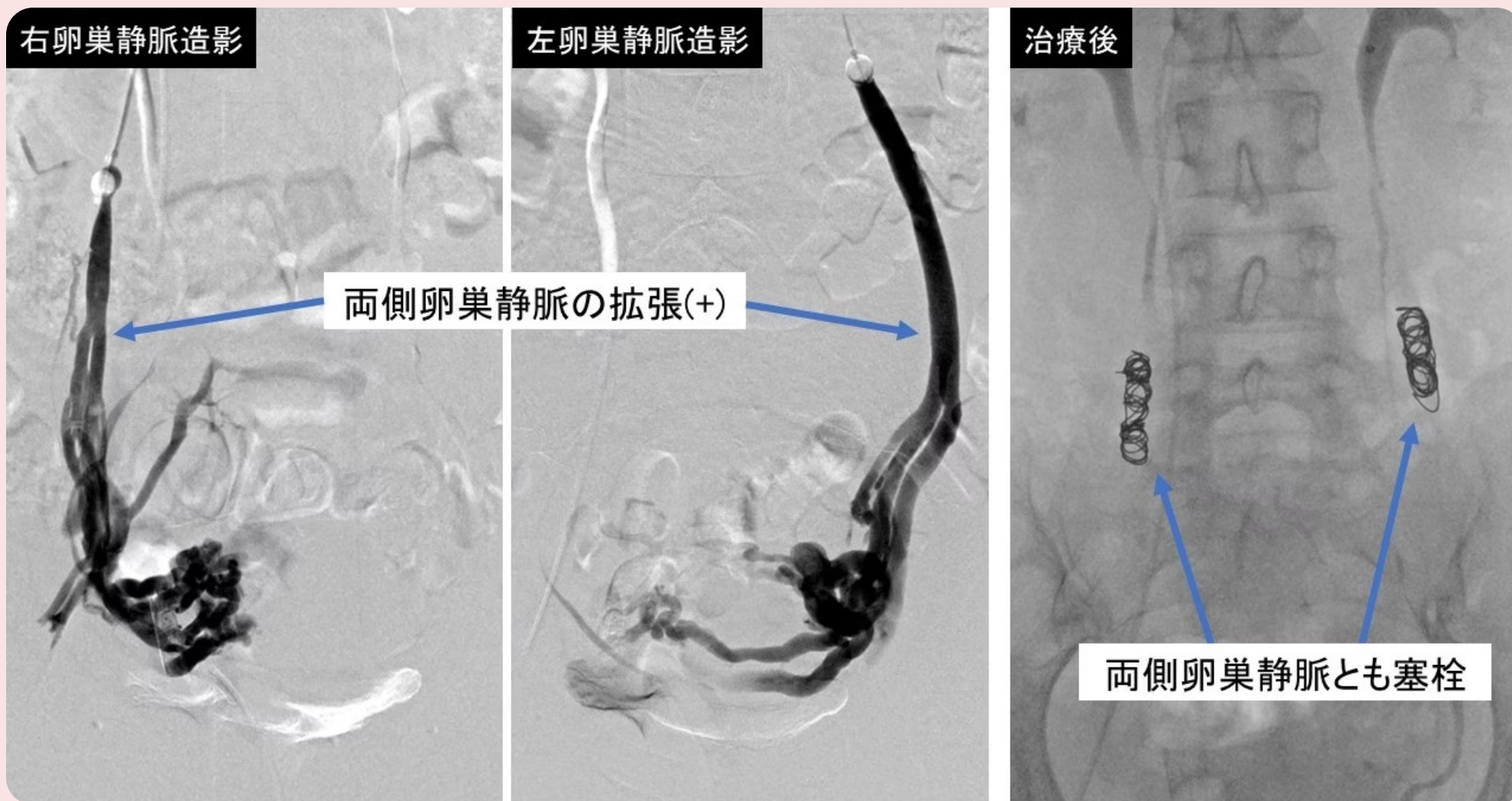
腸間膜を意識すると瘀血の圧痛点は腹部のいろいろな場所に出現しうることが理解できるし、それに伴って内蔵体壁反射としての膜の引きつれが出現することも理解できる

瘀血の圧痛抵抗点が圧倒的に女性の下腹部に多いわけ

骨盤内うっ血症候群



左卵巣静脈が左腎静脈に溜ぐるので瘀血は左に生じやすい



50代女性

主訴

下腹痛、尿潜血陽性

画像所見

子宮の両側で屈曲蛇行した静脈拡張が目立ち、拡張した左卵巢静脈へと繋がっている

下大静脈が造影されていない早い時点で左卵巢静脈が濃厚に造影されており、左腎静脈からの逆行性血流が示唆される。

診断

骨盤うっ血症候群（Pelvic congestion syndrome）

解説

左卵巢静脈への逆行性血流や左腎静脈の走行異常などによって骨盤内静脈の拡張、うっ血をきたした病態で、慢性の下腹部痛、過多月経、不正性器出血などの原因となる。

女性の慢性腹痛の原因として重要だが、意外と知られていない。

症状が強い場合には、左卵巢静脈の塞栓術が適応となる。

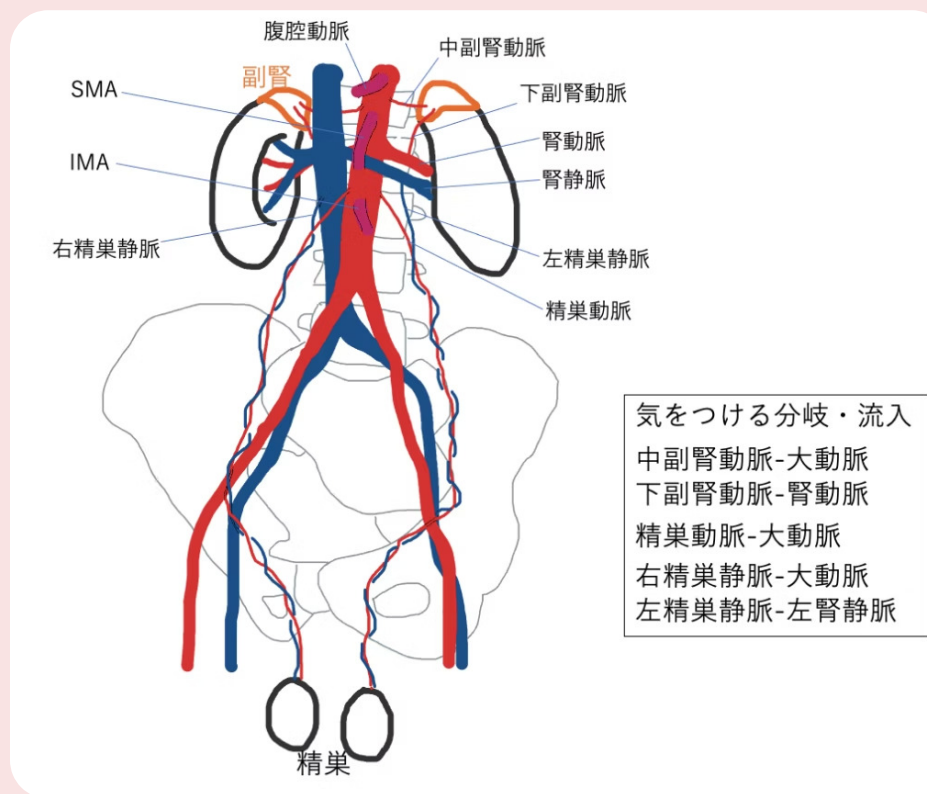


女性において、下腹部は子宮卵巢など血流の豊富な骨盤内臓器が存在し静脈の鬱滞を来しやすい場所であることから下腹部は瘀血の好発部位である。

左瘀血点と動静脈交差

左側では左総腸骨動脈が左総腸骨静脈をまたいで、圧迫しており、左側に静脈鬱滞がおこりやすいものと考えられる。

また左右ともに鼠径部に於いては、兎径靱帯を左右の動静脈が突き抜けて走行しているので、血の停滞がおこりやすい部分だと考えられる。



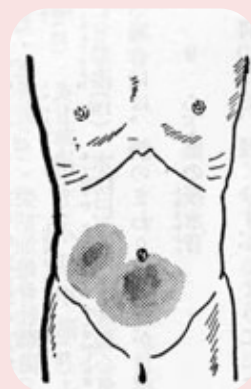
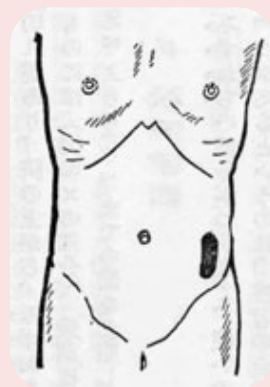
小腹急結

小腹急結は卵巣静脈のうっ血か？

或いは気の上衝による過敏性か？

小腹急結は、「図のような位置に現われ、擦過性の圧に対して、急迫的な痛みを感じる鉛筆大または指のような索条物」によって証明できる。この証がでた場合は桃核承気湯を処方する。

小腹硬満は図のように「下腹部に堅硬な抵抗物をふれ、膨のあるもの」をいう。この証がでたとき、桂枝茯苓丸または大黄牡丹皮湯を処方する。



追記：峯口訣

腹が重くだるいのは腹部瘀血の徴候

腸間膜静脈のうっ血や脂肪組織やリンパの鬱滞を含む

痰瘀互結証の場合がある

○人参芎軍桃花湯

人参、川芎、大黄、桃花

図の如く、腹脹満、心下痞硬、食下らず
一身悉く浮腫し、兩便利せず、百薬効なきもの
この腹証、脹満甚だしき故、
腹底の毒診察しがたし
この時、浮水を去りて而してのち
旧毒を知って、方証相對の薬剤を以て
毒を攻むるにあらざれば治し難し
しかれども又はじめより、本剤極わむることあり
一もみな、腹診の審らかなればなり
ここにいう人参芎軍桃花湯は脹満、心下痞硬して
これを按ずれば腹中雷鳴す、
これ大いに白桃花湯の証なり、、、、、、
この証、あるいは鼓脹或いは中風半身不隨
みな難治として衆医手をつかぬ。
その毒、積年あつまり一時に発するものなり



桃花

白桃の花

成分

ルブチルノサイドA、ルブチロンA、B、アフゼリンなどのフラボノイド

薬能

利尿、活血、緩下作用

本草綱目

気味平にして毒なく、主治、人の顔を悦沢にし、水気を除き、赤淋を破り、大小便を利し、山虫を下し、また心腹痛、および禿げ頭を治す。また大腸を利すること速やかで、これを用いて実証の人の水飲腫満、積滯、大小便閉塞を治すに有効無害であるが、久しく服用すると人の陰血を消耗し、元気を損ずる。

桃花湯は潰瘍性大腸炎に応用される





参考：鶴家甘逐桃花湯

甘逐、白桃花、大黃

峯 尚志

白桃花

【起原】桃の花穂

【効能】通便、利水、潤膚、活血通経祛斑





○甘逐桃花湯

図の如く

四逆散の腹に似て苦満なく

心下痞して軟満水鳴して

漚々として少しく声あり

又、雷鳴する者もあり

例えば人参湯、或は甘遂半夏湯、

或は朮防已去石膏加茯苓芒硝湯、

或は大陷胸丸などを与えて

効なきものこの方もっとも効あり





○大黃牡丹皮湯

大黃1錢2分、牡丹皮9分、芒硝、桃仁各6分、瓜子1錢5分

牡丹皮

基原

ボタン科のボタンの根皮を乾燥したもの

性味

味は苦、辛 性は微寒
帰経は心、肝、腎経

主成分

paeonol、benzoic acid、phytosterol、tanninなど

薬能

清熱涼血、活血祛瘀

薬理作用

抗菌、降圧作用



冬瓜子

基原

ウリ科のトウガンの成熟種子を乾燥したもの

性味

味は甘、性は寒

帰経

脾胃、大腸、小腸経

主成分

trigonelline、adenine、脂肪油

薬能

清熱化痰、排膿

薬効

緩下、利尿、消炎

薬理作用

炎症性の腫脹、化膿に効果がある。

内臓の化膿症（内癰）、熱痰による咳嗽に用いる



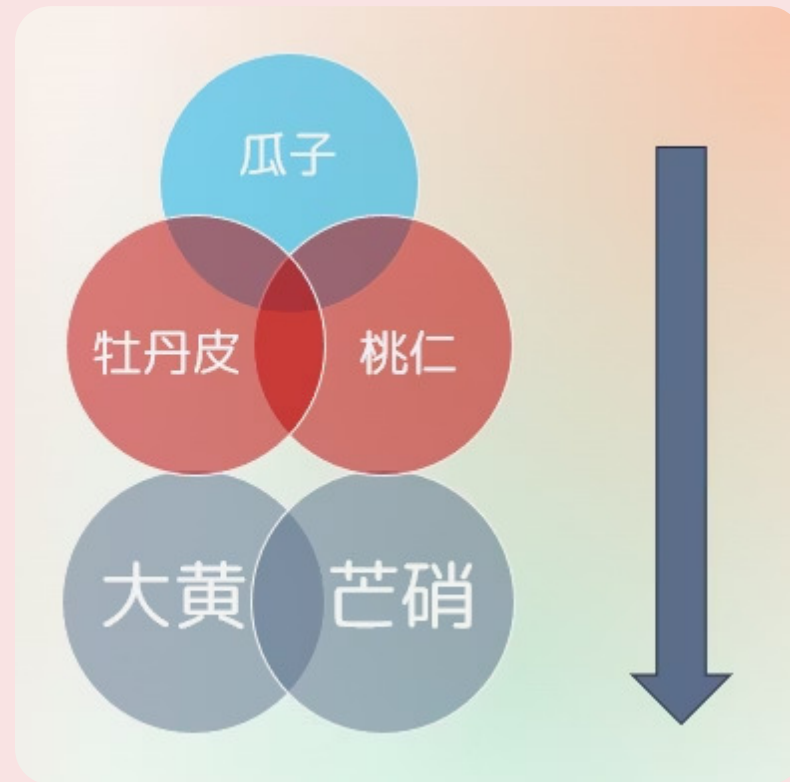
トウガン：夏野菜の代表、水分、カリウムを補い、のぼせ、浮腫をとり、身体を冷やす

そばかすとりには冬瓜子と白桃花の粉末を蜂蜜で練って外用する

大黄牡丹皮湯の構成

駆瘀血、排膿の瀉剤

瓜子の清熱化痰排膿に加えて牡丹皮、桃仁、大黄、芒硝で清熱し、瘀血を強力に下す。



○大黃牡丹皮湯

図の如く

臍下に毒ありて、之れを按ずれば痛むもの

即ちこの証なり

所謂、経閉、血塊の類、或いは乳がん、

男女諸悪瘡を發し腐爛するもの類にこの証多し

その余り、何病を問わず、臍下堅塊ありて

これを按ずれば痛むものは皆この証なり

また此の方のみにあらず、桃軍園、あるいは癰疽圓

或いは芎帰膠艾湯、或いは葛根加大黃湯の類の諸証に

、、、、、、悪瘡腐爛するもの多し

ここにおいては皆、丸散併用し、証によって用いること

ゆるがせにするべからず



大黄牡丹皮湯

（桃核承気湯との違い）

大黄牡丹皮湯は腸胃作用のある甘草を含まないので熱毒の瀉下を第一とする処方である。
カタル期の虫垂炎に用いられ抗菌、清熱、瀉下、祛瘀を目標とする処方である。

桃核承気湯は駆瘀血を重点とした処方であると同時に桂枝を含むため、瘀血に伴う気の上衝を沈める作用、桂枝の温経散寒作用により末梢循環を改善させ血をめぐらせる作用がある。

虫垂が右側にあるため、大黄牡丹皮湯は右、静脈うっ血が左におきやすいため桃核承気湯は左の硬結と言われるが、病態から処方を選択するときは、左右に必ずしもこだわる必要はない。

症例) 56才、女性

【主訴】便秘、乾癬、坐骨神経痛

【現病歴】2年前より、足に発疹ができ紅斑になり広がってきた。最近手や顔や顎にも広がり、痒みがある。時々身体が急に熱くなり、そのときにかゆくなる。皮膚科で乾癬と診断され、ステロイドやビタミンD軟膏を出されるが治らない。また同じく2年前より便が出にくくなり、便が詰まり嘔吐して救急車で運ばれたことがある。薬を飲まなかったら三、四日は出ない。

【現症】

- 身長157cm、体重55kg
- 舌はやや紅色、白苔を認める。
- 脈は沈、弦

腹部は図の如く腹力は実で肥満して臍下部両側の深いところに硬結を認める

皮膚所見

皮疹は赤く隆起部はどす黒く苔癬化し二次感染を伴っているようにもみえる

以上の所見より

大黄牡丹皮湯エキス 7. 5 g

温清飲エキス 7. 5 g

を処方する



経過

3ヶ月後便秘無く快便

皮疹は薄くなり隆起して苔癬化している

部分がなだらかになっている。

現在皮疹は完全に消失している



男性：慢性前立腺炎

膀胱頸部の静脈鬱滞が見られる

抗菌剤とともに証に応じて

桂枝茯苓丸

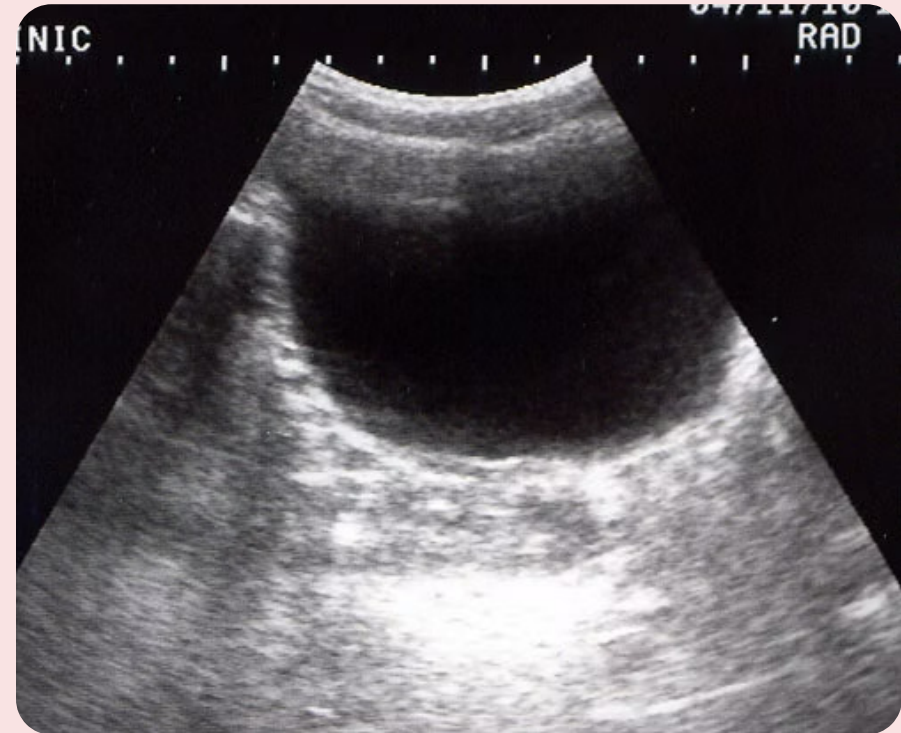
桃核承気湯

大黄牡丹皮湯

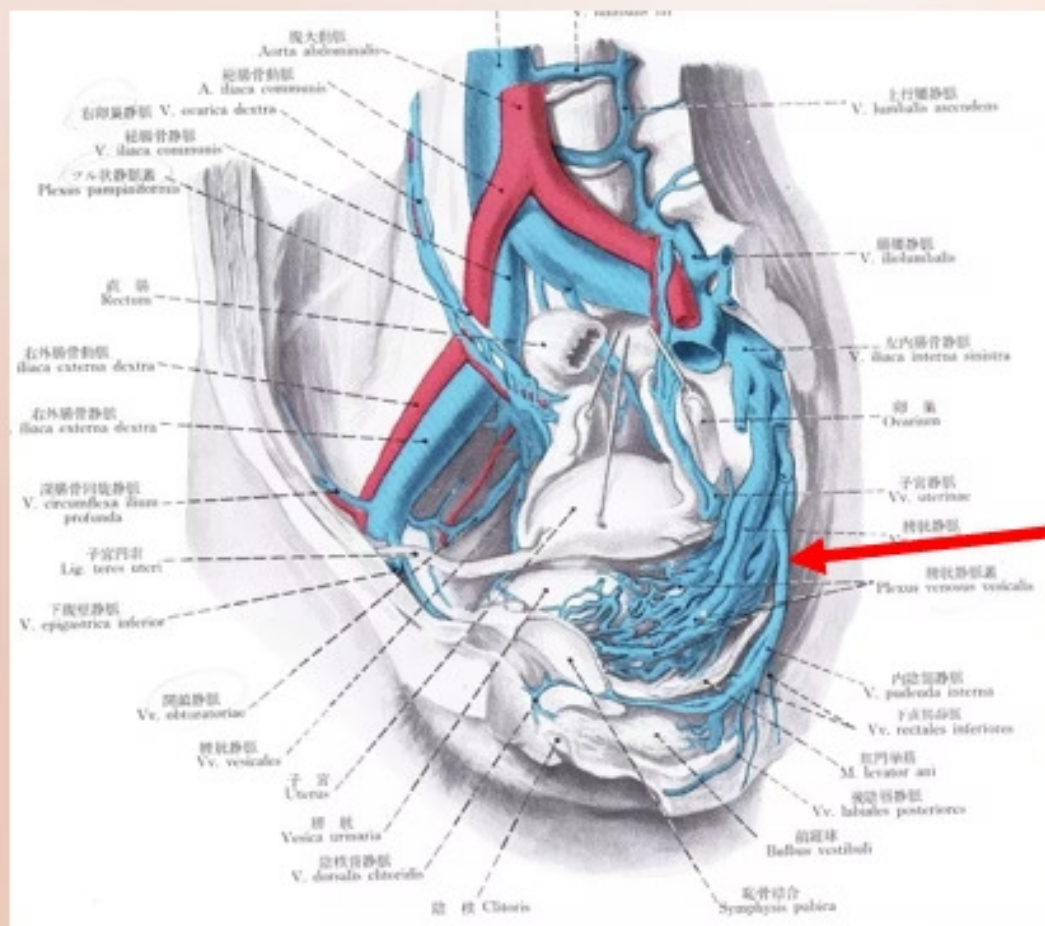
五淋散

八味丸

などが投与される



膀胱頸部の静脈鬱滞



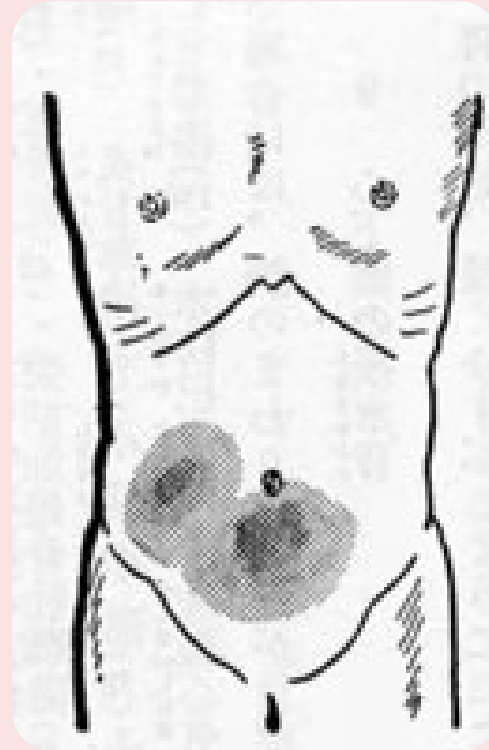
膀胱静脈叢

小腹硬満

小腹硬満は図のように

「下腹部に堅硬な抵抗物をふれ、膨のあるもの」をいう。

この証がでたとき、桂枝茯苓丸または大黄牡丹皮湯を処方する。



癥瘕圓

桂枝茯苓丸加当帰、大黃



○癥瘕圓

図の如く

臍をめぐりて動あり、之れ所謂、胎動なり
天下の人、十に六、七はこの患あらざることなし
病未だ発せざるうちは、さまでに患い煩うことなけれども
若し、この病を発するとき、世にいわゆる中風、
労瘵等の患をなす。

鬱々として心煩上衝し、立てば則ち頭眩し、
或いは肉瞶筋惕、小便不利、血証等の諸症を顕す
一に皆、胎動を以て準拠としてこの証を極むべし
甚だしきは胎動上がりて心胸に迫るを覚う。之れ所謂奔豚気なり
これを伺うの伝、中指の本節を臍穴にあて
指頭をかけて按すこと
或いは重く、或いは軽くすれば
胎動なるもの臍底より到るを考うべし



瘀血による癥瘕の病は女性に多い。
文礼が大黃牡丹皮湯や癥瘕圓を処方した女性は、
いずれも位の高い女性だと思われる。



髪を結って丈の長い服装
しなやかな手指



髪も服装も整え、カーテンのある部屋で
ベットに横たわっている

胸腹の毒凝結して背につく 1

腹と腰はつながっている

いずれの証によらず、腹証をうかがいて、毒の厚深凝血したるものは、皆背につくなり。

之れを治するの法は、まず腹証を按じて毒のあるところを知り

その凝結するところに仮点を打ち、こよりをもって背後にまわし、脊骨の中央にまた仮点を打ち、之れにならいて左右幾ばくの所を指頭をもってこれを按ずるに腹中応うる所あり。

即ちその上に点し、灸すること、一穴五十壮づつ七日あるいは二七日、または三七日に至るときはその毒動き手腹張りいずるものなり。この時、証に応じて薬剤を投じて之れを攻むべし。



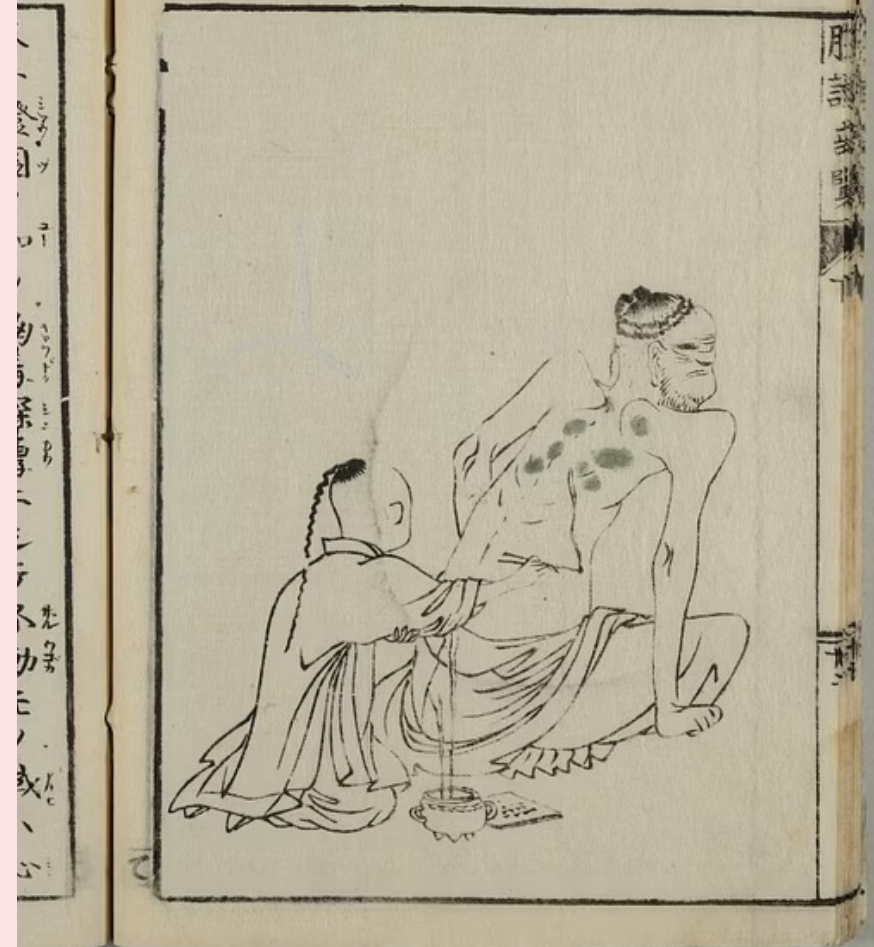
胸腹の毒凝結して背につく 2

胸と背中はつながっている

又、一証、図の如く

胸毒深厚にして動かざるもの、或いは、心痛背に徹して傷むもの、この毒の凝るところへ仮点をうち、これにならいて右の法のごとく、指頭をもってこれを按じ、痛むところへ点を打ち、灸をすること、前の法のごとくして、後、本剤兼用、丸散をもってこれを攻むべし。

之れを定むるの伝。指のはらの頭にていろいろ按すに、自然に凹みなるところあり。是れ愈位とす。又、徹して痛みうるところを愈位とす。是れ毒の所在なり。



灸治療

図の如く

項背の若干凸にして拘攣、

或いは項背強急

是皆、胸毒甚だしくして

諸薬方証相對すといえども

全く治せざるもの間あり

その毒の深きをもって背につく

いわゆる毒陰分につくものはなり

これに灸するの法は、その凸なる所

骨を外れて、指の腹をもって之れを按するに

病者応ゆる所、皆毒なり

指頭の陥没徹底する所、之れに皆灸すること

一穴に二、三十壮、あるいは七日、或いは二十一日、

灸してもって証に従い、方剤をもって之れを攻む

治せざることなし



胸腹の毒凝結して背につく 2

胸と背中はつながっている

又、一証、図の如く

胸毒深厚にして動かざるもの、或いは、心痛背に徹して傷むもの、この毒の凝るところへ仮点をうち、これにならいて右の法のごとく、指頭をもってこれを按じ、痛むところへ点を打ち、灸をすること、前の法のごとくして、後、本剤兼用、丸散をもってこれを攻むべし。

之れを定むるの伝。指のはらの頭にていろいろ按すに、自然に凹みなりとところあり。是れ愈位とす。又、徹して痛みうるところを愈位とす。是れ毒の所在なり。



ここからは古い瘀血を動物性生薬で溶かして取り除く処方

○抵当湯

水蛭30個、蟪虫30個、桃仁20個、大黄3両

○抵当丸

大黄3両、桃仁25個、蟪虫20個、水蛭20個

抵当 = 水蛭

抵当湯は水蛭湯である

神農本草經では水蛭は「至掌」
(至掌→抵掌→抵当)

「味鹹平、有毒、惡血、瘀血を逐い、血瘕、積聚を破り、子無く、水道を利す。」

(馬繼興主編：神農本草經、P455、人民衛生出版社、北京、1995)

水蛭は瘀血を破るが新血は傷害せず、衝任の瘀血を上手に破る

(張錫純：医学衷中参西録、P321、河北科学技術出版社、北京、1995)

水蛭

基原

ヒルド科のウマビルの全体を乾燥した者

性味

性は鹹、苦。味は平 有毒

帰経

肝、膀胱経

主成分

新鮮なものではhirudinを含む。乾燥品では破壊されている。
分泌物にはヒスタミン様物質を含み、heparin、抗凝血素を含む

薬能

破血逐瘀

破血とは蓄血や瘀血を循環血液中に吸収するか、大便として排泄することである。



蟾虫

基原

ゴキブリ科のシナゴキブリの雄の成虫の全体を乾燥したもの

性味

味は鹹、性は寒 有毒

成分

未詳

薬能

破血逐瘀

打撲損傷で骨折の時に使用する。腫脹の消退、鎮痛を促進する。
内服では一日6－9gを酒で服用する。

慢性肝炎や早期肝硬変の肝腫大で肝臓部に鈍痛のあるとき、鬱金、田七、鶏内金と配合して内服すると活血止痛の効果がある。



動物生薬のパワーランキング

薬能：破血逐瘀、消癥



1位 蟲蟲
性：苦、微寒、有毒
帰経：肝

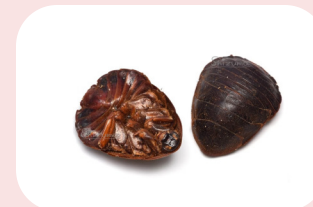
通降経絡、通利血脈、破血消癥の力がもっとも強烈



2位 水蛭
性：鹹、苦、平、有毒
帰経：肝

蟲蟲より作用緩和で持続性がある

「遅緩よく入り、遅緩なればすなわち血を生じて傷らず、よく入ればすなわち堅積を破りやすし」



3位 麤蟲
性：鹹、寒、小毒
帰経：肝

作用はより平穏で、婦人科の通経、内科の消癥、骨折の鎮痛、接骨によく持ちいる。



○抵当湯、抵当丸

図の如く

腹中軟満にして物あり、鶏子核の如きもの

水中に浮かびてあるが如く

これを按ずれば則ち沈み、手を去るによって浮かぶ

或いは之れを按じて傍らへ去り

その数は一、二或いは五、六

その人の面顔唇手足

ともに青白色に透き通るごとくしてつやなし

或いは黄色なる容は勞瘵の如し

小便快利、大便は硬きも反って易し

或いは塊物の臍下臍傍、或いは陰門、或いは陰莖辺

或いは小腹、或いは腹中来去遊走のもの

また本文の如く、腹は満たせざるにその人

「我は満す」というものに持ちう

圖ノコトク、腹中需萬ニシテ、物アリ、鶏子核ノコト

抵当湯或抵当丸
之證



○ 抵当湯の応用例

- 腎盂がん
- うつ病
- 卵巣嚢腫破裂
- 子宮筋腫、子宮付属器炎
- 不妊
- 喘息
- 登校拒否、家庭内暴力

○下瘀血湯 (大黃庶虫丸)

大黃2兩、桃仁20枚、蟅虫20枚

右3味、之れを末にし

煉蜜で和して4丸とし

酒1升をもって1丸を煎じ8合を取り

之れを頓服す

新たに血下ること豚肝の如し

○下瘀血湯

図の如く

臍下に毒ありて、時々痛むことを覚う
これを按ずるに実に痛むに非ず
若しこれを按じて痛むものは余証なり
劑を投ずるに、臍下の診をもって分別する者
八、九あり。詳らかなることは下に記す
この証は、臍下を探りみるに、
少しく指頭に応え堅きものあるを覚え
時として痛むもの、
この証の正証なり
余、考うるに、是れ、大血症にして
婦人は経水通ぜず、
男子もまた血症のもの多し
その人、或いは腰痛久しく止まず
或いは、淋疾、痔、脱肛などの患ある者あり
或いは大建中湯の症を發する者、
必ずこの証多し。



下瘀血湯使いやすい？ 蟅虫を用いた動物性の駆瘀血薬

大黄、桃仁、蟅虫

産婦腹痛、法當以枳実芍薬 假令不癒者、之為腹中有乾血着臍下、宜下瘀血湯主之、亦主經水不利。
右三味、末之、煉蜜和四丸、以酒一升、煎一丸、取八合、頓服之、心血下如豚肝

動物性駆瘀血薬は虚弱者にも使う場面がある

動物性の瘀血薬を使うべき証は邪実で体中毒まみれの実証の肥満者だけでなく、大建中湯証のように、栄養を吸収できず羸瘦して、体力のないものにも使いうる。

乃ち、血が停滞して、このままでは血の栄養作用が働かず弱っていくだけの病人さんに対して敢えて破血の動物性生薬を用いて固まって動かない陳旧性の瘀血を力づくで動かして、血の道を開通することで臓腑への栄養の補給路を確保する。

補瀉の見極めが重要となる。



下瘀血湯治験

余、旧に東都にある時、一男子三十四五才、大腹痛にて臍下痛むこと三年、百薬効なしと云う。

余之れを診するに、暗然として冷氣を覚う。

腹皮強急して頭足あるが如し、乃ち大建中湯を与え一月ばかりにして漸く癒ゆ。

又、臍下痛むを覚え忍びがたし。

乃ち下瘀血湯を与う。

数日にしてまったく癒ゆ。

諸証毒交発者の図

図の如く

腹中軟満にして物あり、鶏子核の如きもの

水中に浮かびてあるが如く

これを按ずれば則ち沈み、手を去るによって浮かぶ

或いは之れを按じて傍らへ去り

その数は一、二或いは五、六

その人の面顔唇手足

ともに青白色に透き通るごとくしてつやなし

或いは黄色なる容は勞瘵の如し

小便快利、大便は硬きも反って易し

或いは塊物の臍下臍傍、或いは陰門、或いは陰茎辺

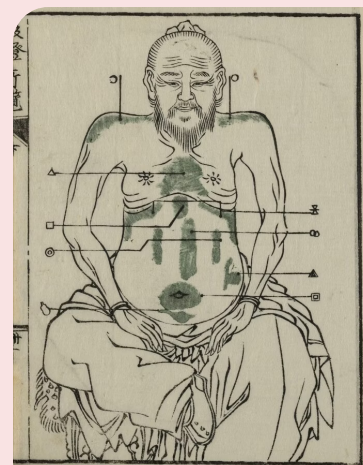
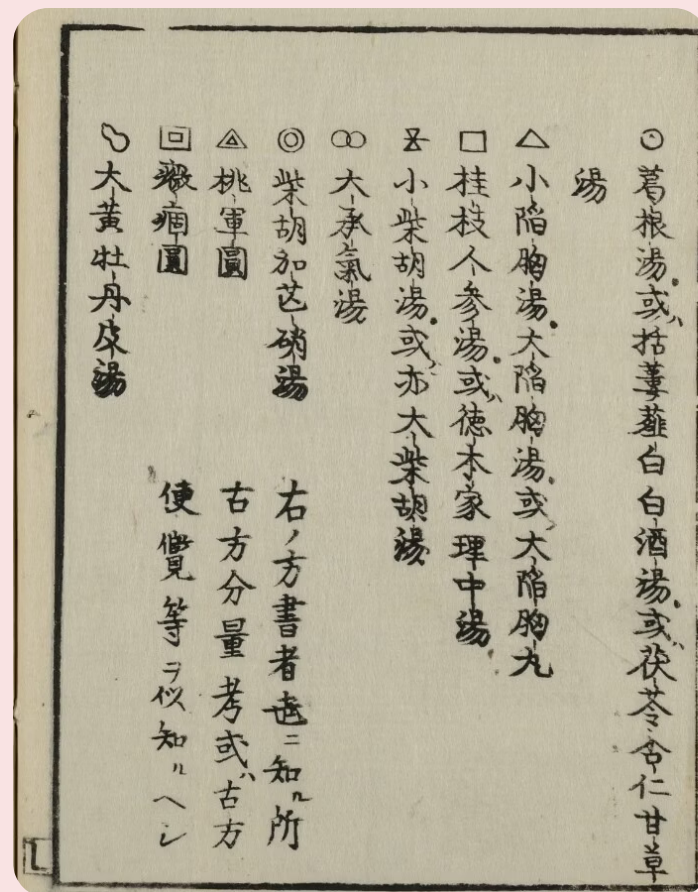
或いは小腹、或いは腹中来去遊走のもの

また本文の如く、腹は満たせざるにその人

「我は満す」というものに持ち



諸証毒交発者の図



『腹証奇覧前編下冊の結び』

この書は、世の沈痾痼疾と称して、医薬の治すること能わざる者を療する為に著す所なり。

医薬も治すること能わざるは、是れ其の病毒あつく積むを以ての故なり。因りて、その薬を投ずるも、世の常の規矩に拘わらずして、その毒に応じて薬湯の分量を増加せざれば、効なきことを知るべし、故にその薬力病毒に敵せざれば治せず。適するときは必ず瞑眩す。所謂

「薬、瞑眩せざれば、その病癒えざるものなり」

方証相敵するを以て病毒これを拒むなり

又、世にそれぞれの薬を与えるも、病者拒むを以て受けずという者あり。
是れ則ち方証相敵するを以て病毒これを拒むなり

たとえ薬を与えれば、直に嘔すると雖も、強いて持ちうべし。

良薬は口に苦くして病に利あるを知るべし。

五雜組に「江左の商人、左肘上に人面瘡あり物を食らう。医者薬石を試みることを教うるに皆苦しむことなし、唯、貝母に至りては口を閉じたり。口をくじりて濯げば、遂にかさぶたを結んで癒ゆ。」

これ、その薬、病に的中する故に、之れを拒むの証なり。

予、衆病者を療するにかくの如きこと甚だ多きを以て定極することあり。故に嘔して飲まず、拒んで受けずと雖も医人、必ず方証相對するの薬を用い、病者におもねりて妄りに分量を増減せず、よく告げ諭し用い得てその効を奏すべし。

まとめ

- 今回は桃核承気湯にはじまり、蟲虫、水蛭、蟻虫などさらに強力に瘀血を駆逐する動物性生薬を用いた抵当湯などの駆瘀血薬について学んだ。
- また駆瘀血薬としての大黄の重要性も忘れてはならない。
- 瘀血の診断においては、臍下にみられる抵抗圧痛が重要となるが、文礼はその圧痛点を臍より上部にみられると提言し、叔虎は上下に硬結が見られるとし、腹の引きつりについても言及してる。
- 実臨床に於いては骨盤内臓器のうっ血が重要で、圧痛点はやはり臍下に見られることが多いが、一方で腹のいろんなところが押すと痛いというものがあり、その中には瘀血剤の適応となるものがある。
- 瘀血は体中に存在するが、特に腹部の瘀血は重要で、動静脈、脂肪、リンパ組織を含む腸間膜の局所的循環障害と考えると瘀血の圧痛点のバリエーションに対する柔軟な理解がすすむものと考えている。